

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成22年2月19日

【評価実施概要】

事業所番号	4073400261
法人名	有限会社 眞心
事業所名	グループホーム 五条
所在地 (電話番号)	福岡県太宰府市五条二丁目15-15 (電話) 092-924-4898
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成22年1月20日

【情報提供票より】(平成21年12月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 8月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 16人, 非常勤 1人, 常勤換算 16.6人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	新築 <input checked="" type="radio"/> 改築 <input type="radio"/>
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3階建ての	2階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	150 円
	または1日当たり	1,400 円		

(4) 利用者の概要(平成21年12月4日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	6 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.1 歳	最低	70 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	丸山病院、中川内科医院、秋吉外科医院、吉塚歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

歴史ある大宰府政庁跡から程近い閑静な住宅地の中にある3階建てのホームである。1階部分はデイサービス、2階から3階がホームとなっている。開設して今年で9年目を迎え、隣接して小規模多機能ホーム、訪問介護事業所等を展開し地域において福祉サービスの拠点となっている。また、地域との交流も積極的に努めている。代表者の福祉に対する熱い思いの下、理念の「やさしい介護とアットホームな毎日」を実践するために、暮らしを共にする気持ちとひとつの家族として接する気持ちを持って、職員一同日々ケアに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の外部評価の結果を会議で話し合い、質の維持、向上を目指し職員一同、それぞれ改善に取り組んだ。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、全職員が関わり(自己評価項目を分担してそれぞれ記入)主任2人がまとめた。自己評価することで日々のケアにおいて振り返ることができ、評価の意義を理解し、また活用することで更なる質の向上に取り組んでいる。</p>
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>運営推進会議は2ヶ月に1回、隣接する小規模多機能事業所と合同で実施し、利用者の状況、ホームの行事・外部評価の報告等が行われ地域行事の情報交換等が話し合われている。(参加者=家族代表2名、市職員3名、民生委員2名、地域包括職員、区長、職員)</p>
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	<p>全職員が利用者に関わり、状態等を把握できるようにしており、家族の訪問時には勤務している職員が、利用者の暮らしぶりや健康状態等を口頭で報告している。また、毎月、新聞「にじ」を作成し、暮らしぶりや健康状態・金銭報告・職員の異動・紹介等を載せ郵送している。意見、苦情の対応については、苦情等を汲み取りやすくする為に面会の際に家族が相談しやすい雰囲気作りを努めている。今後は運営推進会議や行事等の機会を活用して意見や苦情が汲み取れるように働きかけていく予定である。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>事業所が開設して約9年になりグループホーム以外にも訪問介護等福祉事業に取り組んでおり地域においては福祉サービスの拠点として浸透している。事業所で行われた行事(もちつき大会)の案内を行い近所の方に参加してもらっている。町内会に加入しており、町内の活動として清掃や草取り・花壇の手入れ等利用者・地域住民・職員一緒に取り組んでおり、地域において双方向の交流を図っている。</p>

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「やさしい介護とアットホームな毎日」という理念を掲げている。また、ホームの方針の中に「地域住民の方々と自発的な活動など連携および協力を行うなどの地域交流を図ります」とある。理念と方針は一体的なものとして考えられており、利用者が地域の中で地域の一員として暮らし続け支えていくことが謳われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、理念から反れた声かけや態度、行動等があった際はその都度注意・指導をしている。状況によっては全体会議(月1回開催)において事例検討を取り入れ改善を図り、振り返ることで職員全員が理念の共有と実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所で行われた行事(もちつき大会)の案内を行い近所の方に参加してもらっている。参加できなかった方にはもちを配ったり、町内会の活動として清掃や草取り・花壇の手入れ等利用者・地域住民・職員一緒に取り組んでおり地域において双方向の交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年外部評価の結果を会議で話し合い改善に取り組んでいる。自己評価は、全職員が関わり主任2人がまとめた。自己評価することで日々のケアにおいて振り返ることができ、評価の意義を理解し、また活用することで更なる質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、隣接する小規模多機能事業所と合同で実施している。利用者の状況、ホームの行事・外部評価の報告等が行われ地域行事の情報交換等が話し合われている。(参加者=家族代表2名、市職員3名、民生委員2名、地域包括職員、区長、職員)		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の地域密着型情報交換会の参加や利用者に関する必要な手続きや相談ごと等連携を図っている。(具体例としてはほのぼのサービス(財産管理等)の利用に関し担当者で連携を図り制度が活用できるよう取り組んだ。)		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部から講師を招き権利擁護事業の内部研修会を2ヶ月に1回定期的に実施しており(家族の参加がある)、制度の理解に努め、必要に応じて制度を活用できるよう支援できる体制を整えている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員の全員が利用者へ接し、ふれあう中で状態等を把握できるようにしており、家族の訪問時に利用者の暮らしぶりや健康状態等を報告している。また、毎月新聞「にじ」を作成し、利用者一人ひとりの状態や金銭の報告・職員の異動等を記載して郵送している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱はあるが活用されていない。苦情等を汲み取りやすくする為に、面会の際に家族が相談しやすい雰囲気作りに努めている。今後は運営推進会議や行事等の機会に家族の意見や苦情が出やすいように配慮し働きかけていく予定である。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は最小限にとどめているが、異動や離職があった際は利用者へ適切な説明を行い、新人職員とベテラン職員が期間(1週間から10日)を設けてマンツーマンで指導に当たることや基準より職員を多く配置することでダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除をしない。やる気・協調性・体力を考慮し採用している。職員が希望日に休暇できるようにシフト調整を行っている。その他業務に関する研修の受講費用(食費含む)は事業所が負担するなど働きやすい職場環境づくりをしている。	法人代表者及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除をしない。やる気・協調性・体力を考慮し採用している。職員が希望日に休暇できるようにシフト調整を行っている。その他業務に関する研修の受講費用(食費含む)は事業所が負担するなど働きやすい職場環境づくりをしている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表者は常に「利用者第一」を念頭に、常々職員に対し人権や尊厳について指導しており啓発活動に取り組んでいる。また日常の場面において気づいた点等があれば主任も職員に対し指導しており、職員間でも注意し合っている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、外部から講師を招くなど研修を実施している。また、外部の研修に関する情報を職員へ提供し研修を受ける機会の確保に努めており、外部で受けた研修は伝達研修を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業者との交流や連携の必要性を認識している。太宰府地区でのグループホームの相互交流ができるよう取り組んで行きたいと考えているが、現状では管理者や主任だけが他事業所への見学をしている。	○	グループホームを開設して今年で9年になり、地域においては先駆けとなっていることから積極的に交流を深めての、ネットワークづくりに期待したい。また、運営者、管理者のみならず職員間の交流にも期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりのホーム入居ではなく、併設する小規模多機能や1階のデイサービスの利用から始まることが多い。イベント等で関わりながら馴染みの関係をつくり本人が安心して過ごすことができるよう家族と話し合いながらサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物の干し方、たたみ方、調理等の日常生活場面を通じて知恵や慣習を教えていただくことがある。職員は、理念の「アットホームな毎日」を念頭に、暮らしを共にする気持ちとひとつの家族として接する気持ちを持って利用者と共に支えあう関係に努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活全体に寄り添い、本人の話す内容や行動、表情、しぐさ等から思いや意向の把握に努め、本人本位に取り組んでいるが、併設施設からグループホームに移行する利用者が大半であるため、改めてアセスメントは行われていない。	○	現状に応じた課題分析を行い、何が必要であるかの物事を各要素に分けて明らかにすることが望まれる。
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が本人や家族等の意向を伺い、現場職員の気づきや情報を得て原案を作成しているが、必要な関係者を交えて話し合うまでには至っていない。	○	本人や家族等から得られた思いや意向、要望の共通把握をするためにも、必要な関係者を交えて意見交換の場を設け、連携を図りながら介護計画の作成に取り組むことが望まれる。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者一人ひとりの日々の生活状況が具体的に記録されているが、定期的な介護計画の評価や見直し、及び現状に即した新たな計画の作成は確認できなかった。	○	介護計画の設定された期間内でも、変化の兆しに予防的に対応していくためにも、月に1回程度の評価、および定期的な見直しを行い本人や家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画の作成の取り組みの検討が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診の付き添いや、入院時の見舞いと洗濯物の持ち帰り、帰宅願望時はドライブをかねて自宅へ同行している。ホーム利用以前からの趣味や馴染みの場所へ出かけ、これまでの暮らしの継続を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護職員が付き添い、本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族、全職員共に受診結果に関する情報を共有している。夜間の緊急時は、3名の看護職員と主任が協議を行い、家族の了解のもとで医療機関と連携を図り、適切な受診を支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでに2名の看取り支援を行っている。重度化した場合や終末期と思われる時は、本人や家族、主治医と何度も話し合いを行い、本人や家族の要望が決まり次第、看取りに関する確認書を作成して家族等、医療関係者、全職員で支援の方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職場内で接遇マナーや人権教育を行い、誇りやプライバシーを損ねることのないよう対応の徹底を図っている。食事の全介助の利用者にさりげない対応で、心配りや気遣いがみられた。記録等の個人情報は、鍵のかかる事務室で管理、保管されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるが、起床から就寝まで生活全体に寄り添い本人の意思を最優先している。食後の過ごし方もリビングのソファで寛いだり、喫煙場所で食後の一服を楽しんでおり自宅にいるような自然体の雰囲気である。思いをうまく伝えられない方は表情やしぐさ等から本人が心地よいと思える過ごし方を支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を採り入れながら栄養士が献立を作成している。個別に合わせて刻み食やとろみ食が提供されているが、利用者自身で食べやすい形状にしている場面がみられた。利用者のできる部分は職員と一緒にやっている。各食卓に職員が同席し、全介助や見守りしながら一緒に同じものを食べている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一般浴槽と機械浴槽があり、日曜を除く午前と午後の時間帯で入浴を支援している。1日おきの入浴希望者が大半であり、現在夜間入浴の希望者はいない。入浴を拒む場合は思いを尊重し、清潔保持の面から週2回程度の入浴を支援している。年に数回温泉に出かけており、今後温泉行きの回数を増やす計画である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しや清掃活動等、利用者の自主性を活かしている。文化ふれあい館や公民館に出かけ「昭和の暮らしの体験」を楽しんだり、墨絵を特技とする利用者の芸術作品は、他の利用者や所望者に贈られ喜ばれており、本人の活力になっている。遠方に出かける時は家族も誘って気晴らしを支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調、希望に応じて散歩や買物、馴染みの場所へ出かけている。車や車いすを使って少し遠出をして福岡市博物館へ出かけた時は、車窓から眺めるヤブドーム、博多湾、福岡空港の雄大さや景色が心地よい刺激となり、心身の活性につながっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に鍵をかけていない。利用者の様子や所在を職員間で密に確認しあいながら自由な暮らしを支援している。地域の方とは散歩時の挨拶や清掃活動、餅つき等の行事で顔馴染みの関係が築かれており、利用者がひとりで歩いたり、何か気づくことがあれば声かけや連絡の協力依頼をしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	手順書を作成しており、全職員は災害時の避難経路、避難場所を把握している。消防署の立会いのもとで年に2回避難誘導訓練を実施し、その後、総評と指導、助言を得て記録に残し次回に活かしている。地域の方に参加、協力依頼を働きかけている。非常用物品も確保している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分摂取状況が記録されており、全職員は把握している。栄養士が作成する献立を参考に調理を行い、看護職員の助言を受け個別に合わせた支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は明るく、共用の空間は車いすでゆったりと移動できる造りである。利用者が集うリビングの窓から大宰府市内の名所・旧跡の季節の移り変わりを眺望できる。台所から昼食用の茶碗蒸しが湯気をたてており、家庭的でこころが和む空間である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族と相談しながら使い慣れた物品や、思いのこもった仏壇、たんす、鏡台、好きな人の写真、自己の作品、電話機等を配置して、本人が安心して居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		